

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム真清田		
所在地	愛知県一宮市松降二丁目5番7		
自己評価作成日	平成27年10月23日	評価結果市町村受理日	平成28年 1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2392200206-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、恒例となっている秋の1泊旅行、今年は高山まで行ってきました。月2回程の外出・外食や天気が良い時は 散歩に出かけて入居者様の楽しみのひとつになっております。また、誕生日にはAフロアー/Bフロアー集まってみんなで、誕生日の方の生まれた日にささやかではございますが、お祝いしております。ケアプランを基に利用者様の希望と実現とホームでの質の向上を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度から取り組んでいる「重点ケアプラン活動」を実践し、介護計画に対する職員の意識は高くなった。介護計画は家族にも周知され、家族アンケートでも介護計画の説明に回答家族が満足(やや満足含む)と回答し、家族が理解している結果と思われる。利用者が寄りよく暮らすために「重点ケアプラン活動」の充実を図り、その人らしい生活の支援を追究している。
管理者は「看取りを特別な事と考えず自然な形で受け入れたい」との思いがあり、利用者・家族の意向から医師の協力を受け、試行錯誤を積み重ね取り組んでいる。看取りを行い、最後まで寄り添うことで看取りの意義を実感した職員が多い中で、不安を拭うことができない職員もいる。職員の意思の統一を行い、その時に備えることが今後の課題である。職員一同で思いを叶える支援を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時の復唱を継続している、意識づけと実組織つなげる努力をしている。	ホーム独自の理念が玄関に掲示しており、職員は毎日唱和している。職員ヒアリングで、理念の実践として「利用者が穏やかでやすらぎのある生活の支援を心がけている」と聞くことが出来た。	会議等で理念を振り返る機会を持ち、更なる取り組みとして理念を展開したホームの具体的な目標(年度又は月次)を明確にし、職員が一丸となって取り組んで行くことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々の御縁で、毎月慰問に来て頂いている。今年の夏も、駐車場をラジオ体操の場所として使用して頂き、交流している。夏祭りには近隣のお子様も参加した花火を楽しみました。秋祭りには子供会の獅子舞にやってきました。	毎月、町内会長が弾くギターに合わせて利用者がカラオケを楽しむ慰問がある。地域の祭りには子供獅子舞が立ち寄り、夏休みにはホーム駐車場がラジオ体操の場になるなど、子供たちとふれあう機会がある。	認知症ケアの関わり等について、地域に啓発する機会や相談を実施する等、地域に向けた情報発信を行い、認知症の地域拠点としての役割を担っていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	申し込みに、ご来所頂いた方には、少しでもお気持ちに近づける様、これからの事等、今の現状と一緒に考える様にしている。近くの空き状況と一緒に探してご案内したこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お一人ずつ、ご意見をうかがっている、今後の取り組みに生かす様に取り組んでいます。参加出来なかったご家族様には、詳細内容を郵送している。	地域包括支援センター・町内会長・民生委員・調剤薬局・利用者・家族・職員が参加して開かれている。会議が、ホームからの報告を通じての意見交換と研修の場になっている。欠席家族には議事録を送付している。	会議運営に知見者(他のグループホームに管理者)の参加を促して会議を充実させ、議事録に会議内容の課題・検討・結果までを記録として残せるような工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター様より御案内頂く企画に関しては、積極的に参加して情報提供に努めている。運営に切りわからない事があれば、役所に出向き確認をしている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加により、ホームの状況は市役所の窓口に理解されている。管理者は市役所窓口にも顔を出し、担当者との関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解、出来ていないところが目立ってきている、改めて、研修を開催する予定をしている、玄関の施錠の改善は実施できていない。	管理者・職員は身体拘束による弊害を理解している。利用者の安全のために玄関には施錠がしてある。管理者は身体拘束の研修に参加し、職員に伝達指導を行っており、スピーチロックにも気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連について、上記と同じく時間と意識が必要な段階である。事業市内で虐待は無いと思っているが、職員の一一人一人が意識を持って支援していくよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフに学ぶ機会を持てなかった。機会を見て話し合う時間を持ちたいと思う、実際、現入居者様で確答する方が見えない為意識が薄い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居に対して不安を抱かない様説明して理解頂けるように図っています。ほ一むで、できる事出来ない事を踏まえてお話をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時にお話をさせて頂いております。なかなか。お会いできない事もあります。が、毎月、請求書と一緒に近況報告しております。スタッフも気楽に話せる雰囲気作りを努めて見える。	家族の来訪時、運営推進会議や家族会等、意見や要望を述べる機会があり、聞き取った意見や要望を運営に反映させている。毎月献立表、運営推進会議議事録を送付し、利用者の状況は家族に伝わっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を、聴くように努めています。月1回ミーティング	月1回の各ユニット会議があるが、管理者はその都度話し合うようにしている。職員から、「厳しいところがあるが話やすい」「話やすい環境で相談してモヤモヤが解消した」と聞くことができ良好な関係がうかがえた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調や性格・家庭背景などを理解して各スタッフに合った条件で勤めれる様に整備に心掛けていきます。社員。準社員は月二回自己評価を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修に参加して頂く機会を設け、ホームに資料を持ち帰り、勉強会と題して。発表していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム会議に参加するように努めている、又同法人での、グループホーム管理者が集まる時間を設けている、現状の問題点等話し合っている。スタッフ同士が同業者の交流がない為、今後考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気にならせております。ご本人様の言葉やしぐさ行動などから思いを受けとり理解して良好な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームで出来る事と出来ない事をご理解いただき、出来る限りのご要望にお応え出来るように努めて、ご安心してご入居頂けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話からご家族様とご本人様の思いを理解して、必要と思われるサービスを説明して導入に努めている、ホームだけでなく他の施設の説明や資料をさしあげて説明して、ご納得できるところを検討して頂けるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症という病気を、重視せず人としての付き合いが出来る様、又、スタッフと入居者様との関係で無くお互い、一番の理解者である関係を、築くようにしている。人生の先輩であることを忘れず大切にしている、家族のような過ごしやすい環境づくり		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、御家族様等の面会可能であり、外出や外泊、又定期受診はご家族様対応にて、家族の絆を大切にしています。ご本人様に対し、ご家族様が不安と思っ見える事は、こちらが察して。伺うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご協力により、実現できているところと実現できていないところがあるが、友達がみえて毎月食事会に出かける事を10年以上継続されて見える方が見え、ホームに入居されても継続している。	調査当日も10年来の友人が尋ねて来て、一緒に食事をしに出かける利用者に出会った。来訪者にはお茶を出す等して、これまでの馴染みの関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日々、スタッフが理解して席の配慮したり、利用者様の間に入りトラブルにならないよう配慮を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから、御連絡することは少なくなっているが、永眠された後、御連絡を頂くことも多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の想いを受け止めて、出来るだけ本人本位の生活に近づける様に努めている。	利用者の思いを把握するため、寄り添いながら表情や小さなサインを把握しようと取り組んでいる。1対1になる機会を大切に、打ち解けて心を開いて話せるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント以後、知りえた情報などは、アセスメント表に書き加えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けを常に忘れず、顔色や表情などから、いつもの状態と違いはないか、申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり常に状態の把握に努めている。常日頃のバイタルチェック等で観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の入居者様お一人ずつ、スタッフが毎月、目標を見直している。現状に即した介護計画の作成に努めている。ミーティングを行い情報共有している。	介護計画を意識した支援が行なえるように、利用者の担当職員による「重点ケアプラン活動」が毎月行われ、日々の介護に活かしている。カンファレンスで検討して定期的に見直しを行い、介護計画を作成している。	「重点ケアプラン活動」が定着し、利用者の日々の支援に活かされているが、利用者のその人らしさ(個別ケア)の感じられる介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが、記録場所のファイルがある場所を把握して、時間があれば見れるようにしてある。申し送りノート・きづき・入居者様ノートと分けて、出勤時は、必ず見てからケアに入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報に応じて柔軟な対応で、いろんな視点から支援が行なえるよう努めている。医療依存が高い方は訪問看護さんの導入も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関にAEDを設置して、回覧場にて設置したことを知らせ、また、壁にある場所等を掲げて、緊急時に使用いただけるようにしました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの状態を的確に把握して頂くよう、心がけている。情報提供表を希望されるご家族には医師に提出したものと一緒の文面をお渡ししている。	協力医とは信頼関係があり、24時間対応の体制が構築されて安心に繋がっている。馴染みのかかりつけ医の受診は基本家族対応であり、必要に応じ情報提供や家族からの情報を取得してサービスに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、訪問時ご本人様の状態をお伝えしたり、又スタッフには言えないことなどの、真意を伺ってもらい、ホームで知ることにより、今後のケアに活かしている。日常の中でとらえた情報を訪問看護様に伝えています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに、情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただけるよう、ご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは、必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算御導入を現在、本部と話し合っており、御家族様やスタッフの不安を専門分野の方を入れる事により軽減できるのでは検討している。	管理者は医療行為がなく、利用者・家族の意向があれば看取り支援を行う方針である。今年度、看取りを経験する中で、ホームでの看取りに消極的な職員の不安を取り除くことができず課題が残った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを、今年度も受けたいと思っているが、実施にいたっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震想定で避難所まで徒歩でどのくらいかかるか測定してみました。手作りの防災頭巾をさくせいしました。地域の方々と一緒にする事は実現できていませんが、運営推進会議で連絡などして協力をお願いしています。	消防署立会い、職員が作った防災頭巾を使用している地震想定、夜間想定と、年3回訓練を行っている。災害袋を玄関や他2ヶ所に分散して配置している。AEDも設置されており、地域にも広報している。	夜間の災害発生時には地域の協力が不可欠であり、運営推進会議の議題として取り上げ、地域の具体的な協力体制の構築に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃、心がけています。	トイレ・居室の戸閉め励行、トイレ介助や入浴時の羞恥心への配慮をしている。利用者には「さん付け」で呼び、誇り・人権を損なわないように支援し、個人情報の取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。自己決定が出来る様、無理強いないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りで対応できるように努めています。一人一人のペースや体調に合わせてお手伝いやレクに参加して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等御自分で選択して着て頂いている。月に1回、訪問理美容さんが見えて、カット・パーマ・毛染め・顔そり等、本人様希望に応じて自己負担で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握して声掛けにより助けて頂き役割となっている。盛り付け・お盆拭き・食卓拭き・洗い物・食器拭きなど細分化してお手伝いしてもらっています。	週3回利用者と共に買い物に出掛け、力量・要望に合わせ、食器洗い等の役割を担っている。職員は利用者の肘を支え、自分で口に運ぶ支援(心身の維持向上)を図っていた。利用者に合わせた食事形態である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく献立をたてて、どのような物を食しているか把握できている。時間に関係なく、水分は、飲みたい時に飲んでいただけるよう、また、少ないようであれば声掛けをしている。ご本人様の状況に応じて食事量や形態を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっていただいております。週1回口腔衛生に歯科医の往診があり希望者は、受けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、布パンツを着用頂けるよう、失禁の少ない入居者様に関しては試みている。パットの種類の検討も日頃の状態を見て、決めている。定期的に時間を見て声掛けて失禁が無いように心がけている	排泄チェック表を付け、トイレでの排泄を基本としている。一人ひとりに合わせた声かけ誘導で、パット内失禁からトイレでの排泄に習慣化した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水やオリゴ糖の摂取等個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。頑固な便秘には、医療と連携してその方にあった服薬を処方していただいている。牛乳やバナナ等毎朝食に変化を変えて提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間が決まっていますが、個々の希望にそっていないが、1日4名～5名と、時間を気にせずゆったりと入れるように心がけている。	一日おきを基本に、利用者のその日の入浴希望に可能な限り対応し、入浴拒否には無理強いせずに柔軟に対応している。季節感を味わう柚子湯や菖蒲湯等の工夫をし、ゆったりした入浴になるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋の為、夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。1週間に1回はシーツ交換施行		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、必ず、職員に伝達を行ない、様子観察を促している、又、前もって調剤薬局と連携をとり、どのような副作用が起こるか等は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	午前、出来る限り散歩に出かけるように努めている、散歩に出かける場所も3カ所あり、ご希望を伺いながら出かけるようにしている。外出レクも月2回は行い、利用者様に行きたいところを聞くこともある。近くのイベントに出かける事もある	日常的に真清田神社・近隣の公園に出かけている。季節を味わう花見(梅・桜・紫陽花等)や、NHK見学・博物館・航空宇宙博物館等、趣向を凝らした外出もある。1泊旅行は法人の車を使用して(彦根・鳥羽)実践し、利用者と職員の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、ご本人様同士の貸し借りが発生しトラブルになりかけたため、それ以後は、お小遣いは事務所管理となる、買い物ツアー等の企画も推進していこうと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族との関係を見極めながら取り次ぐようにしているが、ご本人様が希望する場合は、入居者様の状態の応じて検討している。年賀状を書いたり出来る様、季節季節に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じて、壁飾りを替えたり、毎月玄関先の飾りの花を季節に合わせて変えている。空気清浄機。温湿度計などを設置して室温に気を配っている。折り紙などを追って飾っている	食堂・リビングは清潔が保たれ、一角には掘り炬燵のある畳の部屋が温かさを醸し出している。壁面には行事の利用者・職員の笑顔溢れる大きな写真が飾られ、利用者全員が座れるソファは、調査日も食後のひと時の談笑の場になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ9名座れて、集まれて、TVを楽しんだり、談話されて見える。東側の窓近くに長椅子を置くことにより、外を見ながらひとりの空間を楽しまれたり、時には、ヒミツの話でもされているのか？気の合った同士2人で談話されて見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、出来るだけご自宅でご使用されて頂いて家具などをお持ちいただけるようにお話している。使い慣れた馴染みのあるものを居室に置いた頂いている	使い慣れた調度品、家族の位牌、遺影、趣味で描かれた絵の作品、家族写真、仕事時代の感謝状、化粧品等思い思いのものが持ち込まれ、清潔で居心地良い雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、安全に歩行できるように努めている。常に家事など行なう時はスタッフと一緒に声掛けに努め手伝ってもらっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム真清田		
所在地	愛知県一宮市松降二丁目5番7		
自己評価作成日	平成27年10月23日	評価結果市町村受理日	平成28年 1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2392200206-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年恒例となっている一泊旅行、高山に行ってきました。入居者様全員参加出来、何事もなく楽しんできました。天気のいい日は、近くの神社まで散歩に出かけております。初詣などの行事レクを取り入れて、季節を感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り前に理念を復唱は継続している。共有していると思うが実施していないので、繋げられるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々の御縁で、毎月慰問に来て頂いている。今年の夏も、駐車場をラジオ体操の場所として使用して頂き、交流している。夏祭りには近隣のお子様も参加した花火を楽しみました。秋祭りは子供会の獅子舞にやってみました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	申し込みに、ご来所頂いた方には、少しでもお気持ちに近づける様、これからの事等、今の現状と一緒に考える様にしている。近くの空き状況と一緒に探してご案内したこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お一人ずつ、ご意見をうかがっている、今後の取り組みに生かす様に取り組んでいます。参加出来なかったご家族様には、詳細内容を郵送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター様より御案内頂く企画に関しては、積極的に参加して情報提供に努めている。運営に辺りわからない事があれば、役所に出向き確認をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解、出来ていないところが目立ってきている、改めて、研修を開催する予定をしている、玄関の施錠の改善は実施できていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連について、上記と同じく時間と意識が必要な段階である。事業市内で虐待は無いと思っているが、職員の一人一人が意識を持って支援していくよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフに学ぶ機会を持てなかった。機会を見て話し合う時間を持ちたいと思う、実際、現入居者様で確答する方が見えない為意識が薄い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居に対して不安を抱かない様説明して理解頂けるように図っています。ほ一むで、できる事出来ない事を踏まえてお話をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時にお話をさせて頂いております、なかなか。お会いできない事もありますが、毎月、請求書と一緒に近況報告しております。スタッフも気楽に話せる雰囲気作りに努めて見える。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を、聴くように努めています。月1回ミーティング		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調や性格・家庭背景などを理解して各スタッフに合った条件で勤めれる様に整備に心掛けていきます。社員。準社員は月二回自己評価を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修に参加して頂く機会を設け、ホームに資料を持ち帰り、勉強会と題して。発表していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム会議に参加するように努めている、又同法人での、グループホーム管理者が集まる時間を設けている、現状の問題点等話し合っている。スタッフ同士が同業者の交流がない為、今後考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係づくりに努めているが、スタッフ全体で取り組めていない傾聴重視して信頼関係を構築するように、今後も務めていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームで出来る事と出来な事をご理解いただき、出来る限りのご要望にお応え出来るように努めて、ご安心してご入居頂けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話からご家族様とご本人様の思いを理解して、必要と思われるサービスを説明して導入に努めている、ホームだけでなく他の施設の説明や資料をさしあげて説明して、ご納得できるところを検討して頂けるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする同士との気持ちが、薄れてきている為、今一度、気づきなどにより、ケアの質の向上に努めたいと思っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、御家族様等の面会可能であり、外出や外泊、又定期受診はご家族様対応にて、家族の絆を大切にしています。ご本人様に対し、ご家族様が不安と見て見える事が話せる雰囲気にも努める様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の行きたいところへ、個別に実現は出来ていないが、外出レクなどに取り入れるように努めて行きたい思う。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日々、スタッフが理解して席の配慮したり、利用者様の間に入りトラブルにならないよう配慮を行なっている。支え合っている雰囲気作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから、御連絡することは少なくなっているが、永眠された後、御連絡を頂くことも多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動・表情から利用者様の想いをうけとり出来るだけご本人様本位に努めております。全スタッフが同じ思いで支援できるよう、努めていくように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など、全スタッフが把握できておらず、スタッフ本位になってしまわないように、今後もカンファレンスなどを通じて把握していくよう努めて行きます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり常に状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の入居者様お一人ずつ、スタッフが毎月、目標を見直している。現状に即した介護計画の作成に努めている。ミーティングを行い情報共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート・きづき・入居者様ノートと分けて、出勤時は、必ず見てからケアに入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組まれていない、いろんな視点から支援が行なえるよう今後取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関にAEDを設置して、回覧場にて設置したことを知らせ、また、壁にある場所等を掲げて、緊急時に使用いただけるようにしました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの状態を的確に把握して頂くよう、心がけている、提供表を希望されるご家族には医師に提出したもの一緒の物をお渡ししている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、訪問時ご本人様の状態をお伝えしたり、又スタッフには言えないことなどの、真意を伺ってもらい、ホームで知ることにより、今後のケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに、情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただけるよう、ご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは、必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算御導入を現在、本部と話し合っており、御家族様やスタッフの不安を専門分野の方を入れる事により軽減できるのでは検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを、今年度も受けたいと思っているが、実施にいたっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震想定で避難所まで徒歩でどのくらいかかるか測定してみました。手作りの防災頭巾をさくせしました。地域の方々と一緒にする事は実現できていませんが、運営推進会議で連絡などして協力をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大切にできるように心がけています。希望に応じて居室の施設もしている。言葉かえの対応のむずかしさを感じている、学習会を開きたい考えています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。出来る限り自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りで対応できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が、好きな服装が出来る様、自己選択に心掛けている。一人一人に合わせた身だしなみに心掛けています。月に1回の訪問理美容、ご希望者様には自己負担で利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握して声掛けにより助けて頂き役割となっている。、盛り付け・お盆拭き・食卓拭き・食器拭きなど細分化してお手伝いをしてもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った形態や食事量を配慮して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっていただいております。週1回口腔衛生に歯科医の往診があり希望者は、受けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、布パンツを着用頂けるよう、失禁の少ない入居者様に関しては試みている。パットの種類の検討も日頃の状態を見て、決めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にバナナや牛乳を取り入れ等個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。主治医と相談しながら、下剤にて調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後に入浴時間を設けている。入る時間は決まっているが1日5名位は入浴できるように心がけて、ゆったりと入れるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋の為、夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、必ず、職員に伝達を行ない、様子観察を促している、又、前もって調剤薬局と連携をとり、どのような副作用が起こるか等は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前、出来る限り散歩に出かけるように努めている、散歩に出かける場所も3カ所あり、ご希望を伺いながら出かけるようにしている。外出レクも月2回は行い、利用者様に行きたいところを聞くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所にて管理している。自己にてお財布を所持してみえる入居者様一名みえるが、ほとんど、買い物する機会をもていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自らされることなく、生活されて見える。手紙等の支援把取り組みたいと思う。実施されていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じて、壁飾りを替えたり、毎月玄関先の飾りの花を季節に合わせて変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング・ソファー・長椅子等外を眺めれる場所等はある、思い思いの場所で過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、うちでご使用させて頂いて家具などをお持ちいただけるようにお話している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、安全に歩行できるように努めている。		